AFICS-JAPAN Newsletter

（仮ロゴ）

No. 3 -2015　2015 年 1 月 31 日発行

Mission Statement

AFICS-JAPAN は、

- **国連システムの活動に協力します**
- **会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します**
- **会員相互の意見交換や情報交換のための交流会合を開催します**
- **国際機関で働く人材育成を支援します**

« 記事一覧 »

- **AFICS-J 会長　年頭挨拶**
- **第２回人材育成勉強会報告**
- **第４３回 FAFICS 総会報告**
- **UNU ライブラリー・トーク共催**
- **UNU ライブラリーと利用協定締結**
- **お知らせ：**

  第４回年次総会のご案内

  人材データベース立上げへ

  会費納入のお願い

謹賀新年

年頭のご挨拶

AFICS-Japan 会長　伊勢桃代

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2015 年を迎え、皆様とご家族のご多幸とご健康を衷心よりお祈り申し上げます。

AFICS-Japan は、今年で創設３年目を迎えます。 この間、皆様から多大なご尽力を頂きましたことに深く感謝申し上げます。

また、私共の活動を進めるに当たり、国連本部、国連大学、UNJSPF、在日本の国連広報センターなど関係各機関からも、いろいろなご協力を戴きました。篤く御礼申し上げます。

2015 年の活動を始めるにあたり感じますことは、グローバルな世界にあって、多くの国の厳しい状態が複雑に交錯し、益々難しい方向に進む将来のように見えることです。 こういった現実の中、私共国際公務員 OB・OG は、その経験と知識を生かして、微力ではありますが国際情勢に対応する貢献が出来ると考えております。とくに、次世代の人材育成には、個人としてもまたグループとしても、日本のため国連のために出来ることがあると考えております。2015 年には、こういった状況を踏まえた活動を続けて参りたく思っております。

さらに、当協会の目的の一つである会員相互の交流と懇親も進めるよう努力いたしたく存じます。

AFICS-J の今後の活動につきましては、2015 年 3 月 25 日（水）に開催予定の第４回年次総会にて提案をさせて頂きますが、皆様からのご助言やご指導を承りたく存じます。皆様の総会へのご参加を頂きますようお願い申し上げます。

皆様の本年のご活躍とご成功とご健康を、執行委員一同お祈りいたします。

第２回人材育成支援に関する勉強会
«日本の若者の国際化»
伊藤光子講師
元外務省国際機関人事センター長

AFICS-Japan は、国際社会で活躍できる人材の育成支援を主要な使命として、会員の貴重な国際経験を社会還元するための事業活動を模索して、昨年から人材育成の勉強会を開始した。前回の横山和子委員の報告「人材育成分野での AFICS-J の貢献の可能性について」に続いて、第２回勉強会は、１０月７日元外務省国際機関人センター長の伊藤光子氏を講師に招いて「日本の若者の国際化」をテーマに最新の状況を報告していただき、質疑応答と意見交換を行った。勉強会は１０時半から国際文化会館で行われ、合計１２名の参加があった。

(以下は伊藤光子氏の講演概要)

伊藤光子氏プロフィール

上智大学国際部卒業。ロンドン大学 SOAS 修士。

1981 年　外務省入省。本省では、ESCAP,UNDP,UNICEF,国連女性の地位向上委員会など主に国連関係を担当。

1998 年～2003 年に国際機関人事センター長として邦人職員の増加促進に努めた。

在外勤務は、在マレイシア大使館、OECD 日本政府代表部、在インドネシア大使館、在オークランド総領事館。

2014 年 3 月末に外務省を定年退職。

I.　日本の若者の国際化は進んでいるか

2010 年にグレン・フクシマがジャパン・タイムズに書いた記事がきっかけで、内向きで海外留学をしない日本の若者のイメージが拡がった。

留学生数は減少したが、原因から見ると日本の若者の国際化がその前の時代より後退したとは言えない。少子化でそもそも学生数が減少、留学生数割合はそれ以前の時代より低くない。米国への留学生は学費高騰が原因で減少したが他国への留学生は増加、留学先が分散・多様化した。日本国内の国際的な大学の増加により国内で国際的経験が可能となった。

2020 年の東京オリンピックを見据えた最近の国の取り組みをきっかけに、日本の若者の国際化はここに来て急速に進みつつある。

II.　国際化への取り組み

１．国（文部科学省）の取り組み：安倍総理、下村大臣の政治主導で国際化推進。

（１）「日本再興戦略～JAPAN is BACK」：2020 年までに大学生の海外留学 12 万人（現状 6 万人）、高校生の海外留学 6 万人（現状 3 万人）とする倍増目標。

（２）「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」：2020 年を見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、2014 年度から逐次、小中高の英語教育改革を推進。

（３）「スーパーグローバルハイスクール」SGH：国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る高校 56 校を指定。

（４）「スーパーグローバル大学」SGU：大学の国際競争力を高めるために 37 大学を指定。

２．大学、高校の取り組み

（１）国際系学部の設立ラッシュ

国際教養大学（秋田）及び早稲田大国際教養学部は、100%近い就職率。これに刺激を受けて、上智、立教、法政、同志社などの国際系学部設立ラッシュ。ICU, 国際教養大学、早稲田、上智、APU の５校はコンソシアム設立。

（２）外国大学の日本校： 日本校テンプル大学、レイクランド他。

（３）高校生から海外大学留学

海外トップ大学進学塾ベネッセルート H や渋谷教育学園幕張・渋谷。

３．企業の取り組み

米国大学への MBA コース派遣社内研修の中止や、外国人学生の採用促進の動き。

（１）トビタテ！留学 Japan：官民協働留学支援制度。

III. まとめ

若者の国際化への取り組みが急ピッチに進んでいる。国内の国際化も急速に進んでおり、将来的に若者の国際化の底上げが進むと考える。この流れに出遅れているのが「４月の新卒者一括採用」という企業の採用制度。柔軟性が求められる。

AFICS－Japan として、例えば、SGH や SGU 指定校で出前講義を行うなど、若者の国際化に貢献できることは大きいと考える。

国際社会で活躍できる人材育成支援に関する課題は多く、AFICS-J は今後も勉強会をつづけていく方針である。第３回勉強会としては、AFICS-J と政府機関だけでなく、教育研究機関や NGO、企業など人材育成に関わる多くのアクターの視点を反映するようなパネル・ディスカッションを企画中である。

第 43 回 FAFICS Council 総会、ローマ

報告：伊勢桃代会長

2014 年 7 月 7 - 9 日にローマで開催された FAFICS Council（元国際公務員協会連合評議会）年次総会に AFICS-J 伊勢会長が代表し出席した。総会には世界中の FAFICS メンバー32 協会から委任状も含め代表 49 名が参加した。総会の主な決定事項及び提案は次の通り。

- 国連年金
  - 国連年金理事会（Pension Board）での、FAFICS としての優先・重要事項は次の通り。
    - ✓ “Two-track system” の擁護
    - ✓ “Pension adjustment system” の改善
    - ✓ UNJSPF における不服申し立て制度の改善
    - ✓ 年金関連の銀行手数料の負担
    - ✓ Small Pensions
    - ✓ 家族の［年金の］権利の見直し（同性の配偶者の場合など）
    - ✓ 国連年金理事会における FAFICS の議決権の要求
  - 新しい UNJSPF 独自の人事政策に関しては、国連総会決議 68/247A で要求されているように、国連年金理事会は国連人事部とともに、政策内容の検討を速やかに行うべき。
  - Emergency Fund （年金受給者への緊急貸出のための基金）

    国連年金基金における Emergency Fund への割当額が、1974 年以来変わっていなかったが、物価にスライドした増額（$200,000→$225,000）要求を支持。
- 定年後健康保険・長期介護

  健康保険のコスト高や定年後健康保険制度の国連システム内での管理・維持に関しての懸念が高まってきている。米国においては、Medicare B 加入資格のある国連退職者に、Medicare への加入を義務付

けることにより、国連定年後健康保険の経費軽減を図っている。

- FAFICS 役員選挙

  FAFICS の役員選挙が行われ、Ms. Linda Saputelli が次期 President に選ばれた。7 人の Vice-Presidents 及び Secretary，Treasurer が各一人ずつ選ばれた。

- 第 44 回 FAFICS Council

  2015 年 7 月、ジュネーブで開催予定。

今後、FAFICS Council 年次総会に代表を送り続けるのは（旅費の全額を協会の予算から出せない現状では）難しいかもしれない。例えば、AFICS-NY と連携することにより、実際に代表を送らず、AFICS-NY に委任をする可能性などの検討が指摘された。

国連大学とライブラリー・トーク共催

「地球憲章：地球を救うための価値と原則」

国連大学ライブラリーは、国際社会の関心事項を取り上げた書籍を選定して、その編著者を招いて、内容の解説そして出版を通じて何を伝えたいかを語るトーク・イベントを行っている。 5 回目のライブラリー・トークは、2015 年 1 月 14 日 AFICS-Japan との共催で開催された。開会に際して伊勢桃代会長が共催の挨拶を述べた。

昨年 11 月に名古屋で開催された「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」に向けて発行された『まんが地球憲章：地球を救うための価値と原則』を取り上げ、発行者の NPO 法人地球憲章アジア太平洋・日本委員会代表の広中和歌子氏および発案・監修者の功刀達朗氏から、地球憲章成立の経緯と「まんが地球憲章」のねらいについてのプレゼンテーションがあり、さらにコメンテーターとしてアジア女性交流・研究フォーラム理事長で地球憲章国際審議会委員の堀内光子氏が、今後の取組などについてコメントした。

「まんが地球憲章」は序文、人口爆発と食糧、地球温暖化と異常気象、戦争と平和の配当、地球憲章全文から構成されている。国際政治漫画家山井教雄氏の文と漫画によるブックレットに編集されたことで、地球が抱えている問題と地球市民の取組がより分かりやすく身近なものになったといえよう。

国連大学とライブラリー利用協定（MOU）を締結

AFICS-J 会員が UNU ライブラリーの蔵書・資料を閲覧しやすくするために、国連大学とライブラリー利用協定（MOU）を締結した。（この MOU 原文は当協会事務局から 12 月 1 日付けの E メールで皆様にお知らせしたとおりです。）

これによって、会員は UNU ライブラリーの蔵書・資料などを 1 回につき 3 点まで 2 週間借り出すことができるようになりました。ライブラリーの PC も利用でき、フォトコピーやプリントアウトも有料でできます。

UNU ライブラリー利用の際は、受付で AFICS-J の会員である旨を告げて身分証明になるものを提示してください。さらに、必要な書籍・資料のタイトルがはっきり分かっていれば、E メール、FAX、郵便などでも受け付けてくれ、送料自己負担で借出・返送することができます。

また、UNU ライブラリーは皆様から、いらなくなった書籍などのご寄贈をお待ちしています。

講演や教育研究のために国連情報をアップデートしたい方など、ぜひ国連大学ライブラリーをご活用ください。

UNU ライブラリー連絡先：

ライブラリアン：松木麻弥子

E メール：library@unu.edu

電話：03-5467-1359

FAX: 03-5467-1360

お知らせ

- **第４回年次総会のご案内：**2015 年 3 月 25 日（水）国際文化会館
  総会 17：30、講演「現場からの報告」 18：30、懇親会（会費 8 千円）19：30
  最寄駅　地下鉄麻布十番駅（千代田線、都営大江戸線）から徒歩 5 分
  今回の「現場からの報告」講演者には、国連人権高等弁務官事務所パレスチナ被占領地区副代表を経て、ビジネス人権資料センター（Business and Human Rights Resource Centre）日本代表を務める髙橋宗瑠さんにお願いしました。
  今から予定表に記入しておかれるようお願いします。

- **会員の人材データベース立上げへ：**AFICS-Japan は、国連職員を含めた元国際公務員による講演依頼や教育研究に携わる人材の要望に応えるために、会員の人材データベース（人材ロスター）を立ち上げることにしました。
  小学校、中学校、高校、大学など将来の国連職員を目指す若者たちだけでなく国際的活動を展開する一般社会人・団体などに対して、会員が蓄積した貴重な知識・経験を社会還元することが目的です。ただいま、人材データの入力フォーマットや運用規定を作成中で、3 月 25 日の総会において発表する予定です。

- **会費納入のお願い：**2015 年度の会費 5 千円の納入をお願いします。
  三菱東京 UFJ 銀行麹町支店 （店番 616） 普通預金
  口座番号　０１１８６４３
  口座名義：　AFICS-Japan　会計　山本和
  （アフィクス　ジャパン　ヤマモト　カノウ）
  ☆前年度会費未納の方は、その分も合わせてお振込みください。
  なお、年会費は 3 月 25 日の年次総会受付でも納入できます。

発行：　国連システム元国際公務員日本協会（AFICS-Japan)執行委員会
Email: afics.japan@gmail.com
Web: www.afics-japan.org

≪国連人≫

７年間の UNDP フィールド・オフィスの後、ニューヨーク勤務となった。初めての本部勤務で、生活環境だけでなく仕事のやり方も大きく変わり、まだ戸惑っていた頃、日本人の大先輩から受けたアドバイスが忘れられない。「ニューヨークではネ、忙しいからといっていつも一人でランチをするようではだめだよ。」以後、出勤したらまずスタッフ・ダイレクトリーを見て、その日のランチ・アポを取ってから仕事を始めるようになった。（MT）